

平成 30 年度 「教育の質向上プロジェクト」 成果報告書

1. 取組名称 (含副題)	学修ポートフォリオの導入による学修成果の可視化と実質的な教育改善を目指して ～学生・教職員による共通理解の醸成と基盤整備～
2. 取組学部等名	情報センター、学務センター
3. 取組代表者／取組者	取組代表者 情報センター長 大津史子 取組者 学務センター長 山岸健三

4. 取組の概要

大学では、3つのポリシーの策定の義務化、認証評価第3サイクルにおける学修成果を重視した内部質保証への移行を受けて、教学マネジメントの確立が急がれている。その仕組みの1つとして、学生自らが学修成果を蓄積し、達成状況を整理点検すると共に、可視化し、大学がこの情報を踏まえて学修を支援し、教学マネジメントを実質化するための学修ポートフォリオの導入が不可欠となっている。しかし、学修ポートフォリオの目的や意義について、学生・教職員の共通理解が進んでいないのが実際である。そこで、学修ポートフォリオを導入し、実質的な教育改善に結びつけるために必要不可欠となる学生・教職員の共通理解の醸成と、導入に向けた基盤整備を行う事を目標とする。

5. 実施計画 (期日と計画内容を箇条書きで示すこと)

4-6月

- ①学修ポートフォリオ研究会の立ち上げ：各部局において、学修ポートフォリオに興味のある教職員を中心とした研究会(ポートフォリオ研究会)を立ち上げる。
- ②学修ポートフォリオシステムの調査：本学においては、現在、理工学部社会基盤デザイン工学科、薬学部において、学修ポートフォリオの導入を行っている。これらは、独自開発のものであるが、その他に、商用ベースのもの、オープンソースのもの、他大学での独自開発のものがある。これらの詳細について、その目的、機能、特徴などの比較調査を行う。本比較においては、学修ポートフォリオ導入する場合の、情報システム基盤の面からの調査も行う。

7-9月

- ③学修ポートフォリオヒアリング調査：現在、学修ポートフォリオを導入し、成果を上げている大学の見学を行う。見学においては、ポートフォリオ研究会の教員及び部局職員などで行い、ヒアリング調査を行うものとする。見学の結果は、事例集としてまとめ、導入内容および成果のポイント分析を行う。

10-11月

- ④学修成果の可視化のニーズ調査：ポートフォリオ研究会で各部局における学修成果の可視化についてのニーズ調査を実施する。そのニーズを踏まえ、学修ポートフォリオにどのような要件が求められているのかを分析する。

11-1月

- ⑤ポートフォリオ評価に関する概念理解とポートフォリオ体験システムの構築：まず、学習理論と評価理論のパラダイム変換に関する学習会を実施し、ポートフォリオ評価についての概念理解をすすめる。ポートフォリオ評価に用いられるパフォーマンス評価の方法であるルーブリック評価についての理解推進のための学習会も実施し、パフォーマンス評価についての共通理解を得る。いずれも、まずは、ポートフォリオ研究会で行い、次に、各部局での開催を検討する。さらに、学修ポートフォリオ及びその評価を小規模で簡易的に試行し、体験できる環境としてポートフォリオ体験システムを整備する。具体的には、教員によるルーブリック作成サポート、学生による

パフォーマンス課題に対するエビデンス蓄積、エビデンスに対するルーブリックを用いた間接評価(学生)と直接評価(教員)の実施、評価に対する省察等を簡易的に体験できる簡易システムを整備する。これを、学修成果の一部である何らかのパフォーマンス課題(プレゼンテーション、ゼミ発表、実習レポート、卒論など)で、小規模に体験をすすめ、本格的な学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の醸成をサポートする。

2-3月

⑥ここまでの取り組みを総括し、学修ポートフォリオを用いた学修成果の可視化と実質的な教育改善への提言を行う。

6. 取組の実績

①学修ポートフォリオ研究会の立ち上げ

情報センター委員会及び学務センター委員会の委員及び職員からなるポートフォリオ研究会を立ち上げた。[第一回研究会：H30年7月3日]

②学修ポートフォリオシステムの調査

現在、日本の大学において利用されているポートフォリオについて調査した。現在、ポートフォリオ機能を持つ各種システムにおいては、LMS機能と学生の学修成果を蓄積・評価する機能の大きく2つの機能がある。その視点から8種類の現在市販されているポートフォリオシステムについての比較を行った。[第一回研究会：H30年7月3日]

また、理工学部社会基盤デザイン工学科及び薬学部において利用されている学修ポートフォリオについて、それぞれの機能についても紹介した。[第二回研究会：H30年10月16日]

③学修ポートフォリオヒアリング調査

学修ポートフォリオの見学及びヒアリング対象は、立命館大学[H30年7月24日]、関西学院大学[H30年8月28日]、京都女子大学[H30年7月24日]、芝浦工業大学[H30年9月3日]の4大学とし、延べ29名の教員及び職員で実地視察及びヒアリングを行った。ヒアリングのポイントとしては、導入目的、ポートフォリオの範囲、具体的な学修成果の可視化の方法、LMS機能、アクティブラーニングへの利用、利用促進対策、学生及び教職員の利用の現状とし、ヒアリング後、意見交換を行った。結果については、比較表としてまとめると共に、各大学の視察レポートとしてまとめた。

④学修成果の可視化のニーズ調査

ポートフォリオ研究会で各部局における学修成果の可視化についてのニーズ調査については、次項の⑤ポートフォリオ評価に関する概念理解の取り組みとして実施した。

⑤ポートフォリオ評価に関する概念理解とポートフォリオ体験システムの構築

第二回ポートフォリオ研究会において、質保証とルーブリック評価についての学習会を行った[H30年10月16日]。第三回ポートフォリオ研究会において、学習理論と評価理論に関する学習の後、より現実的に学修ポートフォリオのイメージ化を促進するため、前述の「学修成果の可視化とポートフォリオシミュレーションワーク」を実施した[H30年10月30日]。シミュレーションワークでは、各教員の科目での学修成果の測定を想定し、科目のアウトカムとディプロマ・ポリシーとの関連確認からその測定方法、測定するための学生の学びの記録などについて、振り返りをベースとしたワークを行った。

薬学部実施のポートフォリオの一部機能(LMS機能及びルーブリックの作成、ルーブリックによる評価(教員、学生))を小規模な体験システムとして構築し、体験版として実施できるようにした。ポートフォリオ研究会の教員メンバーに体験を依頼し(体験期間はH31年1月21日～2月8日)、卒業研究やゼミなどの科目について、8名が体験した。また、一部学生も体験した。体験後、ポートフォリオ機能及びルーブリック評価、蓄積されたデータの組織としての教育評価への利用についての意見をアンケート調査した。

⑥取り組みを総括

これまでの、取り組みを報告書としてまとめると共に、学修ポートフォリオを用いた学修成果の可視化と実質的な教育改善に対して、提言をまとめた。

7. 具体的な成果（所属部局への教育改革の影響・学生の評価を含めて）

- ①学修ポートフォリオ研究会を各部局の教職員で組織することで、各部局のニーズを把握でき、各部局に学修ポートフォリオについての理解者を得ることができた。
- ②学修ポートフォリオシステムの調査を行うことで、各システムの特徴、メリット、デメリットを把握することができ、理工学部社会基盤デザイン工学科及び薬学部における学修ポートフォリオとの共通点や違いについて共通認識が得られた。
- ③学修ポートフォリオヒアリング調査を教職協働で行うことができた。これにより、学修ポートフォリオ運用の実際及びその効果を種々の視点から確認できた。見学及びヒアリング対象は、大規模校及び小規模校、理系、文系と特徴のあるところを見学し、汎用されているシステムの実際の見学を通じて、運用に当たっている大学組織、取り組み体制についても確認できた。いずれの大学も現在進行中であり、それぞれのフェーズでの成果を担当者の生の言葉としてヒアリングできた。ヒアリング調査の結果については、比較表及び視察レポートとしてまとめた。これは、今後の議論においても大きな参考資料となると考える。
- ④第三回ポートフォリオ研究会で「学修成果の可視化とポートフォリオシミュレーションワーク」を実施し、各部局からのニーズ把握を行った。特に、ポートフォリオに記録、蓄積できると良いと考えられる項目及び教育評価としてのルーブリック導入についての意見、ポートフォリオ活用についての意見を得た。
- ⑤第二回ポートフォリオ研究会における質保証とルーブリック評価、第三回学修ポートフォリオ研究会における「学修成果の可視化とポートフォリオシミュレーションワーク」により、教育の内部質保証と学修成果の可視化及びポートフォリオについての共通理解を図った。教員については個人の科目での振り返りにシミュレーションを組み込むことにより、学修ポートフォリオのイメージ化に繋がった。

学修ポートフォリオ及びその評価の小規模な体験は、教員メンバーの9割以上が体験したことで、イメージを具体化することができ、共通理解につながったと考える。これは、システムの話だけではなく、教育の内部質保証や教育改革、ルーブリック評価やその社会的背景などと一緒に情報提供し、理解を促進する必要があることも示していると考えている。ただし、今回は、学生への体験は限られており、学生への理解促進の取り組みはできなかった。また、各学部による共通のニーズと文系、理系におけるその違いも見られた。

⑥取り組み総括

今後の高等教育において、教育の質保証と情報公開は、必須の要件となっている。そのためには、教学マネジメントを確立する必要があるが、その前提としての学生の学修成果の可視化は喫緊の課題となっている。本学のような学生数の多い大学において、個々の学生の学修成果をどのように可視化し、それを実質的な教育改善に繋げていくかは大きな問題である。学修ポートフォリオは、このような社会的ニーズに応える仕組みとして、大学教育への導入が進んでいる。

本取り組みの目的は、学修ポートフォリオについての共通理解の醸成とした。本取り組みにおいては、A.関連の大学組織である学務センター及び情報センターの各委員および職員を構成メンバーとする学修ポートフォリオ研究会を組織し、B.学修ポートフォリオシステムの現状調査、C.学修ポートフォリオ導入大学へのヒアリング調査、D.卒業研究などの科目での学修成果の可視化のシミュレーション及び学修ポートフォリオ機能を実際に利用する小規模体験を実施した。

その結果、学修ポートフォリオ研究会の構成メンバーにおいては、以下についての共通理解は得られたと考える。

- ・教育の内部質保証及び学修成果の可視化の必要性とその手段としての学修ポートフォリオの意義
- ・学修ポートフォリオに求められる機能
- ・学修ポートフォリオの導入の教員・学生イメージ

しかし、今回の取り組みでは、少人数の学生にしか、意見を聞く機会を持てなかった。また、導入に向けては、教育の内部質保証と学修成果の可視化及びポートフォリオの長所、短所についてのさらなる理解を深める必要性など、課題も明らかとなった。本取り組みの成果は、学修ポートフォリオ研究会報告書としてまとめ、各部局に配布した。

提言：社会的に求められている教育の質保証を行うために、教学マネジメントの手段としての学修ポートフォリオの導入は、重要な一手段と考える。学修ポートフォリオ導入の目的は、「学修成果の可視化と実質的な教育改善」とし、全学的に取り組む必要があると考える。そのためには、現在 MS-26 の中期計画に盛り込まれているが、まずは、取り組み組織の明確化を行い、今回の取り組みで行ったことを基盤とした学修ポートフォリオに必要とされる要件確定及び予算措置等が必要と考える。また、並行して、関係部局と協働して全学的な内部質保証及び学修成果の可視化の理解とそれが教育改善に繋がることの理解を深める機会を持ち、学生も含めた教職協働による共通理解を醸成することが必須である。

8. 平成 31 年度以降の取組の展開

今後は、作成したポートフォリオ研究会報告書を執行部及び関係各部局に提出し、全学的な検討の基礎資料としての利用をはかる。

9. 本取組を今後、他学部等が採用した際に見込まれるメリット

本取り組みは、全学的な検討を行ったものであり、本項目は該当しない。ただし、共通理解の基礎資料とするため、各学部にも報告書は提出する。

10. その他の特記事項

また、全学的な取り組みとして行われた FD 講演会に参加し、情報収集に努めた。

演者及び演題は以下の通りである。

◆開催日時：平成 30 年 10 月 31 日（水）13：30～16：00

◆テーマ：『学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ』

◆講師：

大阪府立大学 高等教育推進機構 高橋 哲也 教授（教育担当副学長）

東京理科大学 岡村 総一郎 教授（教育担当副学長）